

英國の労働組合は、資本階級の跋扈と、労働階級の跋扈とを見て、次のことを言へる。英國の場合には、労働階級の跋扈が資本階級の跋扈に勝つた大衆は、階級的連帯責任に燃えておたに反し、組合評議会の指導者層の裏切と降服を要求したのであるが、我々の場合は、一談松若しくは、一評議会だけ、此の争議に連帯責任を感じておただけ、他の労働団体に属する組織労働者及一般未組織大衆は何等連帯責任を感じなかつた、及び彼等の日常利害と密接に連絡せしなかつたこと、水取火の最大原因である。之れは悲しむべき事であるが、幸である。だが或いは反問するであらう。甘色々の団体から激刺電報が来たではないかと、因縁し激刺電報は悪いものではないか、眞の階級的連帯責任は電報だけが全部ではない。否、寧ろ、激刺電報は第二義的なもので、それより肝腎なことは物質的、精神的に争議団を援助することである。

一、労働団体に加へられた圧迫は、全労働階級に加へられたる圧迫である。全労働階級が資本階級に反対して立つことである。更に平易に云へば、労働階級が資本階級・官憲の恫喝敢擧に對して、労働階級の協同敢擧を具體的に行ふ斯かる争議の場合に適用することである。併し狭隘な職業階級組合的、群小割拠的編製の支配してある資本階級の労働組合運動は、かゝる階級的行動を今回の争議に於て發揮はし得なかつた。之は資本階級の労働組合運動の跋扈である。此の欠陥は目の上のコブの如きも

ので、これがあるが爲めに、資本階級の労働組合は可能の範囲に於ける十分な威力を發揮することが出来ないのである。故に此の職業組合的群小割拠的偏見は、資本階級の労働階級の階級闘争と生活上の障害物である。此の偏見を除去し得る手段は、資本階級の労働組合を産業別的契約に統一するより外に手段はないのである。

結論

一、現在我が國の資本階級は労働者の僅少な生活改善にも譲歩をせが、

二、個々の労働者に於て労働者の闘争を打ち破つてゐる。

三、この組織的資本の攻撃を前にして、労働階級の個々の闘争では甚だ勢力が微弱であり、常に跋扈を運命づけられてゐるから、労働階級の生活状態を維持改善するにはどうして、全階級的に團結しなければならぬ。

四、そして此の階級的團結を階級的精神で統制しなければならぬ。此の全労働階級の階級的團結を達成する過程として、資本日本労働